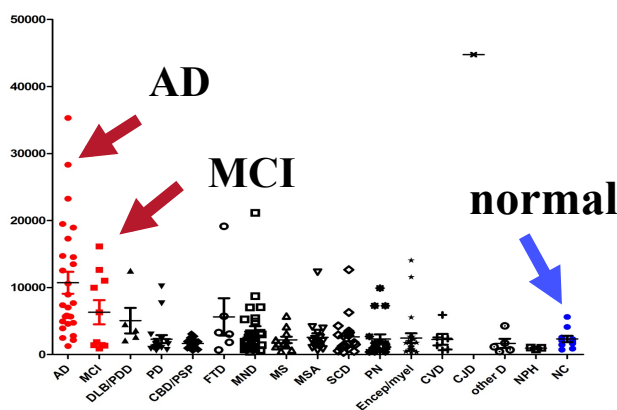


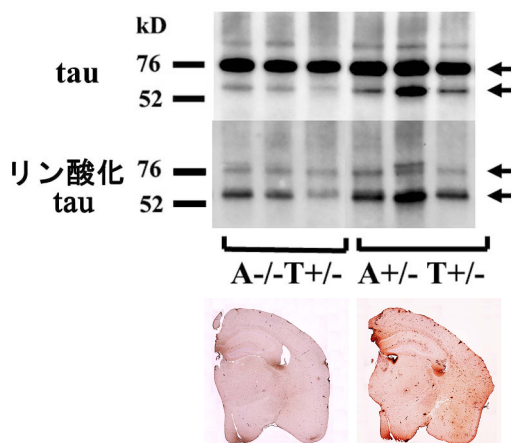
# アルツハイマー病(AD)の診断マーカーの開発と病態機序解明

研究分担者: 弘前大学脳神経内科 東海林 幹夫

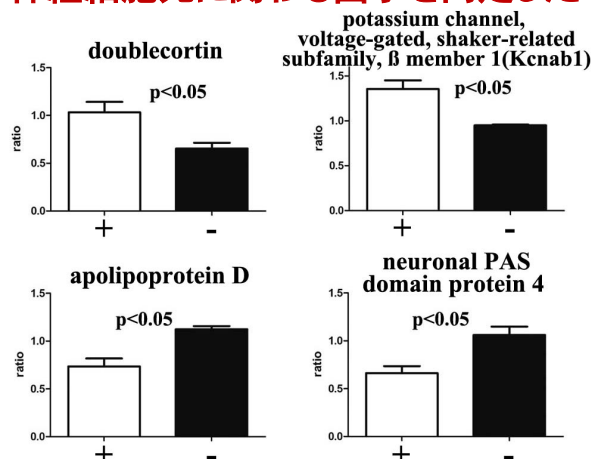
1. 脳脊髄液AD index (Aβ40/Aβ42x t-tau)はADおよびその前段階の軽度認知障害で増加する



2. Aβとtauのdouble transgenic mouseでAβはリン酸化tau蓄積を促進する



3. Tauopathyで神経原線維変化と神経細胞死に関わる因子を同定した



## 解説

1. 我々は脳脊髄液Aβ40, 42およびtauの測定によりアルツハイマー病をその発症前から診断できることを多数例の検討から示した。
2. マウスモデルにおいてAβの発現がリン酸化tauの蓄積を促進することを示した。
3. タウマウスにおいてDNA arrayでタウによる神経細胞死に関わる遺伝子を同定し、蛋白レベルでもその発現が変化していることを示した。